

# 日本地衣学会

ISSN 1347-3085

# No.97

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	第8回大会報告	355
	日本地衣学会第8回大会（京都学園大学，京都府亀岡市，2009年7月11～12日）の報告 / 關谷 次郎	355
	日本地衣学会京都大会に出席して / 吉村 庸	357

## 第8回大会報告 Reports of the 8th Annual Meeting of JSL

### 日本地衣学会第8回大会（京都学園大学，京都府亀岡市，2009年7月11～12日）の報告 / 關谷 次郎（大会実行委員長）

Report of the 8th Annual Meeting of the Japanese Society for Lichenology at Kyoto Gakuen University, Kameoka, Kyoto, 11-12 July 2009 / by Sekiya J.

第8回大会は、下記のとおり京都学園大学にて7月11日～12日にかけて開催された。新型インフルエンザの影響が心配されたが、一般講演19題、ミニシンポジウム2題、公開特別講演1題の発表があり、参加者は58名と盛会のうちに終えることができた。また翌13日には関連行事として、青空地衣教室が開催され、18名の参加者が京都大学フィールド教育研究センター芦生研究林にて地衣類を観察することができた。不慣れなため大会準備の不手際が多々あったが、お許しいただきたい。

\* \* \*

**会期：**2009年7月11日（土）～12日（月）

**会場：**京都学園大学 バイオ環境館（〒621-8555 京都府亀岡市菅我部町南条大谷1-1）

#### 日程

7.11（土）

10:00-12:00 評議員会（バイオ環境館6階会議室）

12:00-13:00 昼食（白雲ホール）

13:00-15:00 日本地衣学会総会（バイオ環境館2階B-3

講義室）

15:00-16:00 一般発表（バイオ環境館2階講義室）

16:15-17:05 公開特別講演「霧の亀岡 農地の植物と地衣」（バイオ環境館2階B-3講義室）

17:30-19:30 懇親会（白雲ホール）

7.12（日）

10:00-12:15 一般発表（バイオ環境館2階講義室）

12:15-13:00 昼食

13:00-14:00 ミニシンポジウム「地衣類の人工栽培」

14:00-14:15 コーヒーブレイク

14:15-15:45 一般発表（バイオ環境館2階講義室）

15:45-15:55 次回大会開催者挨拶

15:55～ 閉会の辞 山本好和会長

7.13（月）

9:00-16:00 青空地衣教室（芦生演習林）

#### 公開特別講演

座長 關谷 次郎（京都学園大）

S1. 「霧の亀岡 農地の植物と地衣」

今村 彰生（京都学園大学・バイオ環境学部）



大会初日に白雲ホールにて開催された懇親会（左）と、二日目の一般講演（右）の様子。

## 研究発表会プログラム

（注：○は演者）

7/11

一般講演

- A1 剣山で見つかった*Dendriscoaulon*の一種：○高橋泰  
 恵\*，原光二郎\*\*（\*千葉県中央博・共同研究員，\*\*秋  
 田県大・生物資源）  
 A2 千葉県産のカシゴケ属地衣類：○坂田歩美\*，原田 浩  
 \*\*（\*千葉県中央博 市民研究員，\*\*千葉県中央博）  
 A3 日本産ハリガネキノリ属地衣類（予報）：○原田 浩\*，  
 王 立松\*\*（\*千葉県中央博，\*\*中国科学院昆明植物研）  
 A4 愛媛県で発見された分布上興味深い地衣類 - その3  
 -：○川又明徳（愛媛県総合科学博物館）

7/12

一般講演

- B1 Taxonomic Study of Genus *Pilophorus*  
 (Lichenized Ascomycota, Cladoniaceae) from  
 SW-China：○Xin Yu Wang\*，Jae-Seoun Hur\*，  
 Li-song Wang\*\*（\*Korean Lichen Res Inst，  
 Sunchon National Univ, Korea & \*\*Inst Botany，  
 Chinese Acad Sci, Yunnan, China）  
 B2 地衣多糖類：木下 薫\*，○高橋邦夫\*，原田 浩\*\*，小  
 山清隆\*（\*明治薬大，\*\*千葉県中央博）  
 B3 Lichen Substances from *Rimelia reticulata* in  
 Vietnam：○Duy Hoang Le，Yukiko Takenaka，  
 Takao Tanahashi (Kobe Pharmaceutical Univ)  
 B4 地衣類の抗酸化活性スクリーニング：○遠藤まり恵，  
 原光二郎，小峰正史，山本好和（秋田県立大・生物資源）  
 B5 Acetylcholinesterase inhibitor from secondary  
 metabolites of lichen forming fungi *Cladonia*  
*macilenta*：○Heng Luo\*，Chang Tian Li，Mei Rong  
 Ren，Young Jin Koh，Jae-Seoun Hur (Korean  
 Lichen Res Inst, Sunchon National Univ, Korea)  
 B6 地衣類の抗腫瘍活性（3）：○佐藤ひかり，小原知久，  
 原光二郎，常盤野哲生，廣田洋，小峰正史，吉澤結子，  
 山本好和（秋田県大・生物資源，理研・抗生物質）

- B7 Detection of polyketide synthase genes from  
 lichen-forming fungi of *Cladonia metacorallifera*  
 and *Cladonia scabriuscula* with use of ClaAT and  
 ClaKS probes：○Jung A Kim\*，Nan Hee Yu，Young  
 Jin Koh，Jae-Seoun Hur (Korean Lichen Res Inst，  
 Sunchon National Univ, Korea)  
 B8 *Cetraria aculeata* の好酸性遺伝子の探索：○加賀谷  
 繭\*，黒木瑞恵\*\*，原光二郎\*\*，小峰正史\*\*，山本好和  
 \*\*（\*(株)ギャラクシー・ファーマ，\*\*秋田県大・生物  
 資源）  
 B9 根室半島と厚岸半島に於ける地衣類と気候について：  
 ○平川 昌（(財)北海道労働保険管理組合）

ミニシンポジウム「地衣類の人工栽培」

オーガナイザー 山本 好和（秋田県大）

- M1 人工環境下の地衣類～地衣類をとりまく環境の計測と  
 制御：小峰正史（秋田県大）  
 M2 地衣類の栽培：坂東 誠（カカシ食研）

一般講演

- C1 地衣体内の光環境と光阻害防御機構について：○小杉  
 真貴子，菓子野康浩，佐藤和彦（兵庫県立大・生命理）  
 C2 地衣類の過剰な光エネルギーを熱に変換する防護機構  
 の解明：極低温での時間分解蛍光測定による解析：○三  
 宅 博久\*，小村 理行\*，山岸 篤史\*，柴田 積\*，小杉 真  
 貴子\*\*，佐藤 和彦\*\*，伊藤 繁\*（\*名大院・理・物理，  
 \*\*兵県大・院・生命理）  
 C3 食用地衣菌由来の菌体外タンパク質の機能と菌体細胞  
 壁：○奥田智子\*，河原秀久\*，小幡 育\*，山本好和\*\*  
 （\*関西大・生命理工，\*\*秋田県立大・生物資源科）  
 C4 地衣菌の液体培養と染色への応用：○石川淑瑛，土屋  
 智美，原光二郎，小峰正史，山本好和（秋田県立大・生  
 物資源）  
 C5 培養地衣菌の二次代謝に及ぼす糖類の影響：○臼庭雄  
 介，原光二郎，小峰正史，山本好和（秋田県立大・生  
 物資源）  
 C6 アカミゴケ類の組織培養：○藤原拓也，原光二郎，小  
 峰正史，山本好和（秋田県立大・生物資源）

## 日本地衣学会京都大会に出席して / 吉村 庸 (服部植物研究所 高知分室)

The 8th Annual Meeting of JSL at Kyoto-gakuen University, Kameoka, July 2009 / by Yoshimura I.

日本地衣学会が誕生して8年目を向かえ、今年は京都学園大の新しいバイオ環境館で大会が開催された。無事に運営できたのは大会会長の關谷次郎先生のお骨折りと、会長はじめ各委員会の責任者の平素のご努力のおかげであり、大いに喜ばしいことと、お礼とお祝いを申し上げます。

当初、地衣類を対象とした小さな学会が果たして成立するかどうか、大会が無事持てるかどうか、機関誌が果たして発行できるかどうか、とてもではないが、運営できないのではないかと、十分な会員が確保でき、維持できるかどうか、大いに疑問視されたものである。8年を経過して、学会は力強い運営と活動を続けているのを目のあたりにして非常にうれしく存じます。

地衣学会の会員は総会で発表されたように、7月9日現在で188名に達し、海外の会員も19名(内1名は学生会員)で例年東アジア諸国から、今年も韓国、中国、ベトナムからの参加者があり、盛況であるのは喜ばしいことである。

学会誌Lichenologyは8巻1号が大会直前に発行され、毎年2号の発行と順調な発展ぶりを見せている。ニュースレターの発行も順調で、本年6月30日に95号が発行され、ニュースを文字どおり、的確に早く会員に知らせることに成功している。地域活性化委員会の主催する地域事業として、日本各地での青空地衣教室も順調に開催され、各地で地衣類の観察会が開催されており、昨年9月26日の剣山での教室は第27回を数え、大会後には足生の京大演習林、8月には男鹿半島での第30回観察会が予定されている。

第8回京都大会では研究発表が19題にのぼり、2日間に分けての発表となった。発表された研究報告を拝聴して、多大の感銘を受け、現在我々はいかなる立場にあり、今後なにをなさねばならないかに思いを致した。以下は私の個人的な感想である。会員の中に分類学者が比較的少ないにも関わらず、分類関係の発表が5件あった。しかも質がかなり高い。韓国順天大学の王(Xin Yu Wang)さんは中国雲南からの留学生であるが、中国南

東部のカムリゴケ属を発表した。雲南を中心に6種を報告したが、うち4種は日本と共通であり、日本産カムリゴケ属の種類はすべて雲南地方に産し、更に2種が加わる。このような傾向は地衣類の他の属、原田浩・王立松のハリガネキノリ属の研究でも見られ、アジアの地衣の分布の中心、つまり種の分化の中心である雲南地方の地衣類の研究が日本の地衣研究者にとっても重要であることを示唆している。同時に雲南をはじめアジアの地衣類研究者にとって日本の地衣類の認識は必要不可欠のものとなってきた。アジア地域の地衣類研究者にとっては研究の進んだ日本の地衣類の認識が重要であり、自国の地衣の認識の基礎の意味も持っている。ここで、我々日本の地衣類研究者の責任の重大さを感じざるを得ない。

一方では従来の研究の不備を補うべき重要な知見があり、坂田さん(カシゴケ属地衣)、川又さん(タナカウメノキゴケ、クイシウメノキゴケ、アマギウメノキゴケ)、高橋さん(剣山の*Dendriscoaulon*)の研究発表も注目された。

地衣学会が、今日のような隆盛をみるに至ったのは地衣類を研究材料とする分類以外の分野の研究者が多数参加し、活発な研究発表をされていることが大きな支えになっている。特に化学成分の知見は分類にも重要であるが、今回も木下さん外(地衣多糖類)、Duy Hoang Leさん(マツゲゴケの成分)のような直接地衣分類にも参考になる、重要な知見の発表のほかに、Jung A.Kim et al.さん(ハナゴケ属地衣菌からのポリケチド合成遺伝子の研究)、加賀谷繭さん外(サンゴエイラントイの好酸性遺伝子の探索)にみるように遺伝子の研究が盛んにおこなわれるようになったのは喜ばしいことである。また、小杉真貴子さん外(光阻害防御機構)三宅博久さん外(光エネルギーの熱変換防御機構の解明)の発表にみるような地衣類の特殊な生態から、その特異な生理機構を解明しようとする研究も見られ、藤原拓也さん外(組織培養)、臼庭雄介さん外(二次代謝への糖類の影響)、にみるような組織培養に関する研究も従来からさかんである。応用研究の白眉は佐藤ひかりさ

ん外（地衣菌の抗腫瘍活性）であるが、平川昌さん（根室半島、厚岸半島における地衣類と気候について）など我々に地衣類の無限の応用を示唆してくれる。平川さんは北海道労働保険管理協会に所属しており、地衣類の研究に恵まれた環境とはいいいがたいが、長年の観察ですばらしい研究結果を発表され、多くの感銘を我々に与えた。

公開特別講演では今村 彰生さん（亀岡の農地の植物と地衣）に以外なところに地衣があることを教えられた。

これらの発表で特に気のついたところは、地衣類の研究が、①非常に幅の広い分野において、奥深く進展を見せていること、②研究拠点として、秋田県立大学・生物資源、韓国順天大学付置韓国地衣類研究所、中国科学院昆明植物研究所、神戸薬科大学、明治薬科大学、兵庫県立大学生命理学部、名古屋大学、大学院、理学研究科・物理 等であり、特に韓国順天大・地衣研究所の方々の発表に力強さを感じた。地衣研究の伝統の貧弱なところで、新たに地衣類の研究を興すのは大変な苦勞と莫大なエネルギーを消耗するのに、立派な成果をあげておられることに深甚なる敬意を表したい。

最後に、だが最小ではないが、地衣類の人工栽培という前人未踏の分野に敢然と挑戦している坂東誠さん（地衣類の栽培）、小峰正史さん（地衣類を取り巻く環境の計測と制御）によるミニシンポジウムが開催され、用語の定義から始まって、基本的なことから高度のテクニックにいたる多くの事柄を教えて頂いたことを特記した

い。

日本地衣学会第8回大会に参加して、いまさらのように、学会が充実し、発展していること、会員のみなさんが、大きく成長していることを実感した。

大会運営がスムーズに行われていること、発表機関である、Lichenologyが順調に発行され、質の高い論文が搭載されていること、各種の活動（観察会その他）が活発に実施され、会員の多数の参加があること、これらは学会の存在価値を高めるものであり、いまや、このような活気のある学会に成長したことはご同慶にたえません。かつて日本植物学会において、その会誌である植物学雑誌の発行を中止したらという動きがあった。理由は専門分野の学会も多くなり、投稿する雑誌も多くなったので、植物学雑誌は廃止しても良いのではないかという意見が強くなってきたというのである。ところが、そのことを聞かれた朝比奈先生は[君たちは植物学会をクラブにするつもりか、]と一喝されたという。現在は、植物学雑誌は Journal of Plant Research として生まれ変わり、学術誌として発行を続けており、立派な論文が搭載されていることは皆様もご承知のことと申します。学会にとって学会誌は年次大会とともにその学会の中心であり、これなくしては学会とはいえないと思う。いまや東アジアの地衣類研究の中心的役割をはたすようになった日本地衣学会の発展を慶び、ますますの発展と会員の皆様のご健康と研究の進展を祈願いたします。

---

## ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 80号 290ページに。

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 97, pp. 355-358: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 10 Oct. 2009.

---

日本地衣学会ニュースレター 97号

発行日：2009年 10月 10日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

---

---

©2009 日本地衣学会 (© 2009 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。